

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

10月中旬、「日本の名湯・金太郎温泉とほたるいかミュージアム・尾崎かまぼこ」を訪ねる日帰り旅行に参加する。地元信用金庫で年金を受け取っている

る関係者を対象にした旅行。支店長自ら旅行に同行して、対応に奮闘。金融機関にとつて、年金受給者の獲得の重要性を再認識する。

バスガイドの豊富な情報量と話

術で車内は、大いに盛り上がる。北陸新幹線の話

旅に出て、自分たちの地域の素晴らしさを再認識する大切さを考えてみませんか

の中で、北陸新幹線系魚川駅を利用した夫婦連れでの「白馬周辺のんびり滞在旅行」が大評判との情報。在来線の特急利用でも可能で、7日間の旅行期間、5万円を切る商品もあるとの情報は、現場観

光関係者の努力の一面なのだろう。また白馬北尾根高原が企画した、ご来光ツアーも話題との事。朝5時にリフトに乗車、山腹でご来光を見学し、朝7時には解散の企画。宿泊

という意味を持たせている。朝日が出る前に山がバラ色に美しく染まり、アーベントロート(夕焼け)とともに、山が最も美しく見える時の1つだ。毎日住んでいると当

分たちの住む地域の素晴らしさを考える事の大切さを再認識する。訪れた尾崎かまぼこ館、「細工かまぼこ」でも有名で、館内でも富山の職人の素晴らしい技を間近で見学、取り

を求める企画力は大いに魅力で今後の展開が楽しみになる。確かに「モルゲンルート」が注目されている。モルゲン(朝)とロート(赤い)の意味を掛け合わせて、モルゲンロート(朝焼け)

たり前の風景だが、日常生活の中で、朝焼けを見られる環境に無い人が多い事も事実だ。参加したメンバーの中で、特に移住して来られた皆さんから地域の財産だとの声が多い事も実感。旅先から、自

に、新鮮な海の幸をふんだんに使って作られる「かまぼこ」。受け継がれた伝統的手法と開発を重ねた近代的な技術が観光現場でも活躍。屋敷を兼ねた懇親会は、金太郎温泉に。懇



買い物も大切な観光。工場見学・実演・直売の工夫に感心するが、対応の笑顔が心に残る。

親会は、楽しみの温泉入浴を逃す参加者が出るほど大盛り上がり。旅行にとつて見学や食事、体験より、人との交流が参加者の笑顔を引き出すのだろう。懇親会を盛り上げるス

は限られている。その不足を補う地域アイデアが、今後ますます求められる観光産業になっっていることを実感した旅行でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)